

令和7年度「心のバリアフリー教室」について

1. 実施概要

令和6年度までの課題点を受け、今年度は①「心のバリアフリー」に関する正しい理解を効果的に伝えること、②実施校の拡大を見据えてプログラムの見直しを行いました。

実施単位：1コマ目：学級、2,3コマ目：複数～全学級

対象学年：原則小学5年生

プログラム：・1コマ目「知ろう!心のバリアフリー」

さまざまな人がいることや困りごとの背景にある社会的バリアについて理解を深めた。(講師:担任の先生)

・2コマ目「考えてみよう!心のバリアフリー(コミュニケーション編)」

動画視聴やプリント学習を通して、困りごととその解消に向けて自分にできることを考えた。(講師:市職員)

・3コマ目「考えてみよう!心のバリアフリー(障がいの社会モデル編)」

クイズや講義を通して社会的障壁を減らす工夫や行政等の取組について学ぶとともに、障がいの社会モデルについて理解を深めた。(講師:市職員)

・宿題

学校生活や学校の体育館へ避難した時の困りごとや自分にできることを考える内容。

<参考>令和6年度プログラム

1日目:講義(さまざまな人がいて、それぞれ困ってしまう場面が違うことを知る)

2日目:障がい者との交流(交流を通じて、自分とは異なる困りごとがあることを体感する)

3日目:障がい者との交流(遊びの工夫を通じて、自分にもバリアを解消できることを学ぶ)

4日目:講義(目に見えない障がい等を知り、すべての人が抱える困難に共感する力を培う)

2. 令和7年度実績

次の3校で実施しました。

学校名	学年	時期	場所	備考
梅田小	4年	12月	視聴覚室	市民部会が視察
浜之郷小	5年	12月	ランチルーム	1コマ目を参観日に実施
汐見台小	4年	12月	ランチルーム	なかよし級も参加

3. 児童の感想例(提出プリントより抜粋)

- こんなに困っている人がいることや、ちょっとしたことでも解決できて、みんなが笑顔になれるんだということを学びました。
- 今まで自分にできることってあるのかな?とっていました。ですが、心のバリアフリー教室で自分ができるとか用意できるものがたくさんあることが分かりました。『みんなが違う事が当たり前』だけれど、まずは自分にできることをやっていきたいという考えを持つことができました。

<参考>令和6年度 児童の感想文(抜粋)

- ぼくは、いままで障がい者の方は、かわいそうだなと思っていました。なぜなら、車いすの人は、子どもや大人の人が通れる道も通れないからです。「ゆるやかな坂」や「スロープ」などを取りつけるなどして、生活しやすくすればいいと思っていました。ですが、いざ、バスの中で車椅子の人に会いました。手伝おうと思いましたが、声をかけられませんでした。その時、生活のしやすさだけでなく、声をかけて、「困っていることがないか」などの事をみんなが気軽に話せるように、車いすの人だからと言って、緊張せずに声をかけあえる街にしたいなと思いました。
- 最初は、障がい者はただの病気だと思い、深く知りたいとは思わなかった。けれど、心のバリアフリー教室をやったり、経験してみたら、耳が不自由な人は、とても困るし、他の人も耳、手、足、目、色々困ることがいっぱいあって、大変さも分かったから、今度見つけたら、助けてあげたい。

4. 保護者の感想例(提出プリントより抜粋)

- ・相手の立場にたって考える大切さを実感できたようです。単に同情するだけでなく、具体的な行動案を出せたことは、大きな成長だと感じました。これからも、勇気をもって行動していける子になってほしいです。
- ・実際にイメージしながら、その人に対して自分は何ができるのか、また、何があればその人の生活が過ごしやすくなるかを考えられており良かったです。相手を想像すること、そして他者の考えやアイデアを知る機会は大切だと思います。

5. 教員アンケート結果（未回答があったため、各項目の回答数合計は一致しません。）

授業終了後に教員を対象にアンケートを実施しました。

	満足・やや満足	普通・ほど良い	不満・やや不満
全体の満足度	4	1	0
授業時間数	3	2	0
教材の内容	5	2	0
事前説明のわかりやすさ	6	1	0
教室のねらいの達成度	6	0	0

	多い	ほど良い	少ない
1コマ目の内容量	4※	2	0
2コマ目の内容量	3	3	0
3コマ目の内容量	2	4	0

	深まった やや深まった	どちらとも いえない	深まらなかった
先生ご自身の「心のバリアフリー」に関する理解	6	1	0

※1コマ目の内容量のほか、宿題が負担に感じるというご意見をいただきました。令和8年度は、1コマ目の内容量と宿題の量を見直して実施します。

6. 市民部会の意見(抜粋)

終了後に梅田小学校の授業を視察した市民委員から出た意見は次のとおりです。

- ・子どもたちの質問や発言が多く、内容を理解していることが感じられた。
- ・障がい者、高齢者、外国にルーツがある方など、当事者の話を視聴する動画は分かりやすかった。「人は本と同じで、表紙だけを見て中身を分かることはできない」という話は、子供たちによく伝わったと思う。視聴時間は少し長かったと思う。

※令和8年度は、動画の長さを見直します。

7. 今年度のまとめと来年度の方針

本事業を通じて、児童の感想などからも心のバリアフリーの考え方を効果的に伝えることができ、一定の効果が認められたと考えられます。1コマ目を各校の教員が実施したことで、教員の理解が進みました。さらに、クラスの実態に応じた授業展開が可能となり、学びの広がりが見られました。来年度については、課題として挙げた1コマ目、動画、宿題の量などについて改善を図りつつ、実施校の拡大を目指して引き続き取組を進めていきます。